

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	15-025	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Substance use disorders in schizophrenia, bipolar disorder, and depressive illness: a registry-based study. 統合失調症、双極性障害およびうつ病における物質関連障害：レジストリー研究		
<b>執筆者</b>		
Nesvåg R, Knudsen GP, Bakken IJ, Høye A, Ystrom E, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2015 Aug; 50(8): 1267-76. doi: 10.1007/s00127-015-1025-2.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
統合失調症、双極性障害、うつ病、物質関連障害		25680837
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 統合失調症、双極性障害およびうつ病の患者に併存している物質関連障害 (substance use disorders, SUD)の有病率とそのパターンを比較することを目的とする。		
<b>方法：</b> 2009~2013 年に統合失調症、双極性障害あるいはうつ病と診断された 1950~1989 年に出生したノルウェー患者登録者を対象とし、アルコール使用障害 (alcohol use disorders, AUD)と非アルコール薬物障害 (drug use disorders, DUD)のデータを用い分析した。AUDのみ、DUDのみ、あるいは両者の有病率を年齢別、診断別、男女別に比較した。		
<b>結果：</b> 各疾患における SUD 有病率は、統合失調症 25.1% (AUD: 4.6%, DUD: 15.6%, AUD+DUD: 4.9%)、双極性障害 20.1% (AUD: 8.1%, DUD: 7.6%, AUD+DUD: 4.4%)、うつ病 10.9% (AUD: 4.4%, DUD: 4.3%, AUD+DUD: 2.2%)であった。双極性障害の中年男性は AUD 有病率が最も高く (19.1%)、統合失調症の若年男性は DUD 有病率が最も高かった (29.6%)。DUDのうち、統合失調症で他の疾患に比べ、鎮静剤使用障害が多く見られた。また、統合失調症の男性のうち 8.8%に大麻使用障害、8.9%に覚醒剤使用障害を認めた。		
<b>結論：</b> 重度の精神疾患を有する若年者において DUD 有病率は驚くほど高かった。今後、違法薬物使用を減らすための予防活動が必要と考えられる。		